

af imp

祝創刊15周年へ、ラスト1号
特大号♥完全保存版

特別なブックinブック
いい音聴きたい♥
輸入車オーディオプロショップガイド!

12

www.autofashion.com/imp
2009年12月号 700円 毎月10日発売
次号2010年1月号は12月10日(木)発売

スタイルアップカーコンテスト命な皆様に愛と感謝を
ファイナルステージバトル36台登場

ナイト メイクアップ!

あなたのクルマが大変身
夜光輸入車大特集

夜、妖艶なるスタイルアップのススメ!

最新スタイルアップカー♥

ABT VW GOLF GTI
Alpil AUDI A4

海外チューナーズドイツレポート
speedART



秋のイベントモリモリレポート
BMWファミリー
ヒットハウスロコツアー
ワンス、ボルボオンリーツアー
VW&AUDIフェス

輸入車チューニング RS! imp

直線番長0^{ロコ}→400m大会♥



機能美満載のスバルタンフォルムが空気の壁を切り開く



↑Rウイング (¥580,000) はGT2ライクなデザインで、純正の可変機構と組み合わせることで高速域で効果を発揮

↑カーボン製のFリップ (¥410,000)。アグレッシブなカラーリングはチューナー GPの優勝マシンに準じたものだ



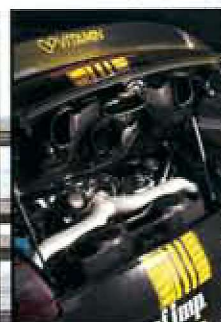
↑ドアミラーはカウルを交換するタイプでカーボン製で超軽量 (¥290,000)。デザインは純正というのがニクい



↑エンジンはチューナー GP スペックのパワーキットを組み込む。スポーツキャタ、EXマニ、K&Nのラムチャージャーで600ps前後を発揮



↑ホイールはGTRと呼ぶ鍛造3P。サイズはF9/R12Jの20インチ。価格は¥330,000/¥370,000。ムービットのセラミックブレーキは¥240万円、R225万円というプライスだ



↑これが通常時の車高。美しいローフォルムで、ストローク感もあるから、このまま乗り回したいと思うのも当然



↑リモコン操作で数秒でここまでリフトアップ。ビルシュタインのクラブスポーツとの組み合わせで価格は79万円



ローフォルムでも瞬時にクリアランスを確保

↑フロントのラゲッジ底部にあるコンプレッサーに配管を組み込んだリフトシステム。作動はリモコンでスマートに操れる

気負うことなく快適なうちに魅惑のスピードが手に入る

カーグラフィックのスタンスは、完全なる機能重視主義。例えばこの911ターボにしても、エアロはフロントのリップとリアウイングのみ。そもそも風洞実験までしてキツチリと仕上げられた911ターボのエクステリアの空力性能を、個性化という大義名分だけで台無しにするのはナンセンス、という考えなのだ。

ちなみにこのフロントリップはカーボン製で超軽量というだけでなく、装着することで最大10kgもダウンフォースを増大する効果を発揮する。純正装着の可変ウイングの伸縮式ステーをそのまま活かした大型のカーボンウイングも、強力なダウンフォースを発揮してくれそうなカタチだ。

エンジンチューンはコンピュータと吸排気でポテンシャルを無理なく引き出したもの。そう書けば普通だが、ノーマルでも480psを誇る3.6リッターのツインターボは、ツボを押さえたチューンによって飛躍的なパワーアップを果たしている。

インテークブレナムと呼ぶ、スロットルから左右バンクへと吸気を振り分ける分岐部分のパイプが鍵だ。こいつがボトルネックを解消して、タービンやインタークーラーの能力を活かし切る。そのチューニングの成果はというと、可変シオメトリータービンの優位性を存分に感じるトルクフルで爽快な加速を見せつける。どこから踏んでも速過ぎるほど速い。

試乗車はティプトロニックだけに気難しいところは伺えない。トルク

コンバータの柔軟なフィールも有り余るトルクには有り難いほどだ。それにしても、この乗り味のスマートさはどうだ。20インチを履いていることが信じられないほど、ストリートでは少々ギャップなどまったく気にも留めずに快適なフィールで走り抜ける。その上、スポーツモードを選べば、瞬時にダンピングレートがアップする。その乗り味は引き締まるがフラットに近い路面の高速では、こちらの方が安定感も高く快適だった。

鍛造ホイールのディスクが濡れさせる機能美がまたいい。軽量で高剛性というだけでなく、彫刻のように剛性感を伝えてくる、クールな造形だ。

多分、この乗り味にはムーヴィットのセラミックブレーキも影響を与えている。ボルシエのPCCBと比べてもさらに軽量で強靱なディスクは、冷えた状態での効き味にも何ら不満はなく、しかも当然の如くサーキットでも高い耐久性を誇るのだ。

純正のタイヤ充填用エアコンプレッサーを利用したリフトシステムもユニークだ。コンプレッサーやタンクなどの重量物を追加することなく、必要な時にだけフロントをリフトアップ。これにより低いカーボンリップを気にすることなくスロープや段差を乗り越えることができる。

街乗りからサーキットまで涼しい顔でこなす。ボルシエの理想ともいえるべきスタイルをかなえるのが、カーグラフィックというチューナーだ。

コンバータの柔軟なフィールも有り余るトルクには有り難いほどだ。それにしても、この乗り味のスマートさはどうだ。20インチを履いていることが信じられないほど、ストリートでは少々ギャップなどまったく気にも留めずに快適なフィールで走り抜ける。その上、スポーツモードを選べば、瞬時にダンピングレートがアップする。その乗り味は引き締まるがフラットに近い路面の高速では、こちらの方が安定感も高く快適だった。

鍛造ホイールのディスクが濡れさせる機能美がまたいい。軽量で高剛性というだけでなく、彫刻のように剛性感を伝えてくる、クールな造形だ。

多分、この乗り味にはムーヴィットのセラミックブレーキも影響を与えている。ボルシエのPCCBと比べてもさらに軽量で強靱なディスクは、冷えた状態での効き味にも何ら不満はなく、しかも当然の如くサーキットでも高い耐久性を誇るのだ。

純正のタイヤ充填用エアコンプレッサーを利用したリフトシステムもユニークだ。コンプレッサーやタンクなどの重量物を追加することなく、必要な時にだけフロントをリフトアップ。これにより低いカーボンリップを気にすることなくスロープや段差を乗り越えることができる。

街乗りからサーキットまで涼しい顔でこなす。ボルシエの理想ともいえるべきスタイルをかなえるのが、カーグラフィックというチューナーだ。

ターボ。パワー炸裂で抜群な破壊力 これぞフラット6の メガトンパンチ!!

カーグラフィックというネーミングで頭に浮かぶのは、某自動車雑誌? いやいやドイツには同名のチューナーがいる。しかもネーミングからは軟派なイメージさえ想像できそうだが、そのスタイルは完全に機能重視で、ドイツのあのチューナーGPの常連であり、このところ三連覇を達成している実力派なのである。そのチューナーGP仕様の011ターボが日本に上陸した。

写真●藤井元輔
文●高根英幸



**Cargraphic
GT RSC 3.6**

問●カーグラフィック・ジャパン TEL.0798-68-5551
<http://cargrahic.jp>



MFK Autosport

もっと楽しめ!!
ENJOYオールドスクール!

Telefon:49-0671-41023

ドイツのフランクフルトから西に40km程走ったBad Kreuznach=パート・クロイツナハにチューニングショップを構えるMFKオートスポーツ。旧車のレストア、メンテナンス、そしてパワーアップグレードやオプティカルチューニングまで、さまざまなサービスを行っている。最近ではエアブラシを使ったカスタムペイントやボディモディファイがチューニングファンの間で話題になって注目を浴びている。そんなMFKが“オールドスクール”なRS6 C5をベースにショップデモカーを製作した。ECUモディファイとエクゾーストチューニングを行って、4.2リットルV8パワーを520馬力まで向上させたことがトピックスだ。シャシーアップグレードした足元には、20インチのSchmidt Revolution製CC-Lineモデルを合わせている。

↓ボディメイクはいたってシンプル。クロームカラーをブラックアウトし、RSパッチも取り外してある



↓70年代、80年代のラリーシーンに多くの伝説を残した20世紀を代表するドライバーの1人Walter Röhrl氏。彼が手にしている商品がB16エアリフトサスペンションキット。リフトアップ時には、リモコンスイッチを操作後約15秒でキャンパープレートの下にあるゴム製エアスプリング（エアアロー）が膨らんでフロントが持ち上がる



↑装着したホイールは13ピースモデルのCC-Line。サテンブラックのディスクを選んで色の統一感を図っている



→MFKオリジナルのエクゾーストシステムは、100セルの触媒とYプランチシステム付きの製品で価格は5,999ユーロ、日本円で約82万円（2009年10月）になる。現時点でMFKはホームページを立ち上げていないので、欲しい人は直接電話をして注文するしかない

→フロントバンパーユニットは、幅広くローアングル、さらにダクト付きというかなりアグレッシブなデザインだ。ホイールの奥には赤く彩られた4ポットキャリパーと280×28mmディスクを組み合わせたブレーキシステムが収まっている。キャリパーの色はリクエストできるとのこと

HAMANN LARGO

イタリアンコンパクト
のためのプログラム<http://www.hamann-motorsport.de/>

世界中のFiat500ファンに向けて、HAMANNがリファインディングメニューを紹介している。オリジナルのボディデザインにパーフェクトフィットするコンポーネントは、フロントスカート、前後ワイドエクステンション、サイドスカート、そしてフェラーリのデザインからヒントを得てデザインしたというディフューザー一体式リアエプロンになる。LEDデイトタイムランニングライトを備えたフロントバンパーは、続くワイドフェンダーエクステンションと組み合わせでワイドスタンスを演出できるように設計されている。全幅はなんと、純正に比べてフロントで30mm、リアで35mmも拡大しているのだ。サイドには、フェンダーアーチの意匠とバランスさせたパーフェクトシェイプのスカートを設定している。リアには4本出しテールパイプとの組み合わせを考慮して設計した、ディフューザー一体式エプロンが備わっている。両サイドと、そしてセンターにダクトを設けたアグレッシブなスタイリングも特徴だ。足元はHAMANNコイルオーバーサスペンションで落とし、18インチの鍛造ホイールをインストールしている。

Cargraphic Airlift suspension kit
ポルシェのための
ハイエンドサスキット<http://www.cargraphic.de/>

理想の走りのために、ポルシェのトップチューナーCargraphicがBILSTEINと技術協力を結んで開発された商品が“エアリフトシステム”だ。レーストラック用セッティングの足回りで、公道でも支障なく走れるリフト機構を備えている。例えばパークングエリアやガレージに入れる時にちょっと障害になりそうな段差があった時に、フロントを55mmリフトアップさせることができるのだ。さらにポルシェ純正PASM（ポルシェ・アクティブ・サスペンション・マネジメント）機能を維持したまま装着ができることも利点に持つ。エアリフトサスキットは、BILSTEIN B16と組み合わせたコンプリートキットと、純正サスペンションに取り付けるアップグレードキットの2種類を設定した。対応車種はポルシェのGT2、GT3を含む997レンジをはじめ、986、987、996になる。



↑世界的に有名なモータースポーツドライバーWalter Röhrlを迎えて、ホッケンハイムリンクテストドライブを行った

↓アルミ製ベダルセットとHAMANNのロゴ入りフロアマットでインテリアもスタイルアップした



↓最低で-60mmまで落とすことが可能な車高調整式サスペンションキットでローフォームを作り、Fiat500専用サイズの13ピースモデルの18インチはフロント80×18、リア90×18



→ディフューザーに組み合わせたテールパイプはφ76と迫力十分。エクゾーストシステムは、1.4iと500アバルトに設定